

私は、令和元年度に MPH コースに入学しました、門脇知花と申します。しばらくは助産師として働いていましたが、入学を機に一旦退職し、大学に通う日々を送っています。

周産期の現場において、現場で起こることの原因や、自分の介入による結果、または別の結果の可能性について、感覚でとらえ、思考しなくなっていく自分に疑問を感じていました。また、現代社会を取り巻く様々な外的・内的要因が、子どもの成長過程に与える影響について疫学的な視点で捉える力をつけたいと思うようになりました。そのようななかで岡山大学の MPH コースを知り、入学するに至りました。

私は専門学校を卒業したため、大学院で学ぶ機会を得られるとは思っていませんでした。しかし、これまでの臨床現場での経験や活動を評価いただき、また色々なご縁も重なり、入学が叶いました。それというのも、この教室が、疫学だけにとどまらず、様々な分野の人との共同研究や、幅広い内容の授業や機会を通して、広い視点を持つ専門家を育てることを大切にしているからだと思います。理解が進まない自分に焦りを感じることもありましたが、学ぶたびに、発見と、疫学の奥深さを感じています。

MPH コースは、様々な分野を専門とする先生方のご指導を受けながら、自分の関心のあつ分野の研究を、様々な角度から進めることができる最適な環境だと思います。